Aikido
Air Sports
Archery
Baseball-Softball
Billiard
Bodybuilding
Boules Sports
Bowling
Canoe
Casting
Dance Sport
Fistball
Floorball
Flying Disc
Gymnastics
Handball
Hockey
Ju-Jitsu
Karate
Kickboxing
Korfball
Lacrosse
Lifesaving
Muaythai
Netball
Orienteering
Powerlifting
Racquetball
Roller Sports
Rugby
Sambo
Sport Climbing
Squash
Sumo
Surfing
Tug of War
Underwater Sports
Waterski & Wakeboard
Wushu

オリンピック・パラリンピックと連携する国際総合競技大会

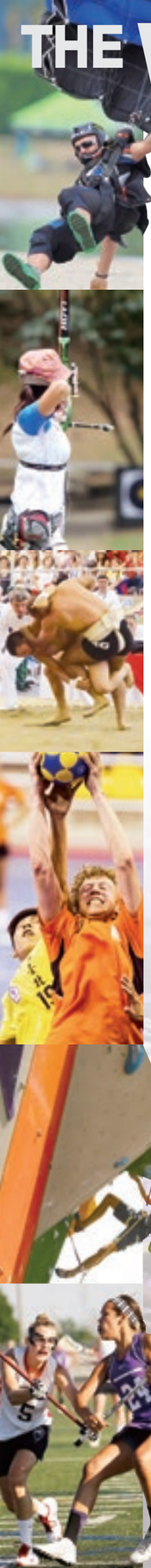
THE WORLD GAMES

THE WORLD GAMES
CHENGDU 2025
『第12回ワールドゲームズ』
2025.8.7-8.17
成都大会
中華人民共和国

Organisation recognised by the
INTERNATIONAL OLYMPIC COMMITTEE

JAPAN World Games Association
特定非営利活動法人 日本ワールドゲームズ協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階 笹川スポーツ財団内
TEL:03-6229-5300　FAX:03-6229-5340　E-MAIL:info@jwga.jp

https://www.jwga.jp/



THE WORLD GAMES

THE WORLD GAMES
「オリンピックに採用されていない種目」の国際総合競技大会

ワールドゲームズとはオリンピックに採用されていない種目の国際総合競技大会です。国際ワールドゲームズ協会（IWGA：International World Games Association）主催、国際オリンピック委員会（IOC）後援で4年に一度、夏季オリンピック・パラリンピック競技大会の翌年に開催されます。実施される競技種目は、IWGA加盟競技団体からの申請をもとにIWGA理事会（Executive Committee）が、オリンピック競技大会に採用されてない競技種目で開催地の既存競技施設で実施可能であること、世界的に普及しており世界選手権大会が定期的に行われていることなどを基本条件に案を作り総会で決定します。

第12回大会（2025）からは、新たにIWGAが国際パラリンピック委員会（IPC）・IOC・大会開催地組織委員会と協議して追加される競技種目が加わり、特にパラスポーツが強化されます。IWGAへの加盟条件は、IOC承認競技団体か、非オリンピック競技種目の世界選手権大会を統括している夏季・冬季オリンピック競技団体であることで、2015年時点で既にIWGAに加盟している団体は例外とされています。

今までに、ワールドゲームズ競技種目の中から11競技種目（バドミントン、野球、ソフトボール、テコンドー、ビーチバレーボール、女子ウエイトリフティング、トライアスロン、7人制ラグビー、ローラースポーツ<スケートボード>、スポーツクライミング、サーフィン）がオリンピック公式競技種目に採用さており、2020年東京オリンピックの追加競技種目となった5競技（野球・ソフトボール、空手、ローラースポーツ<スケートボード>、スポーツクライミング、サーフィン）と2024年パリオリンピックの追加競技種目になったダンススポーツ（ブレイキン）は、すべてIWGA加盟競技です。このようにワールドゲームズはオリンピックと密接に関係しています。

4年毎に開催されるワールドゲームズ大会は、世界最高レベルという基準で各競技の国際スポーツ連盟(IF)によって選ばれた選手たちにより、約10日間にわたって熱戦が繰り広げられます。大会の特徴は、施設建設に巨額の費用を要するオリンピックとは異なり、選手村を作らず選手は既存の宿泊施設に競技別に宿泊します。また、競技は既存の施設で開催できる競技種目のみで実施するため、大変少ない費用で開催できることです。表彰式では金、銀、銅のメダル授与、国旗掲揚は行われますが、行き過ぎた国威発揚や勝利偏重主義は抑えられていることも特徴のひとつです。また大会期間中、大会参加者が一堂に集える『ワールドゲームズ・パーティー』を開催し、参加者の交流を深める機会を設けています。

ワールドゲームズの起源

オリンピック競技以外の国際スポーツ連盟（IF）の多くは、その競技がオリンピックの公式プログラムに新たに加わることを望んでいますが、オリンピックは規模が拡大し、新たな競技種目を加えることが非常に困難な状況にあります。そこで1970年代に非五輪競技の中からオリンピックに匹敵する世界的な大会を開催し、人々やメディアの関心を集めようという動きが出てきました。その動きは1980年5月21日に韓国のソウルにおいてオリンピック競技に入っていない12のIFにより「ワールドゲームズ協議会」（WGC）が設立され具体化しました。第1回大会は1981年にアメリカのサンタクララで開催され、WGCは、国際ワールドゲームズ協会（IWGA）と改称。その後、回を重ね、第11回大会は2022年にアメリカ合衆国のバーミングハム市で開催され、99の国や地域から過去最多となる3,457名のトップアスリートが参加しました。大会には毎回、日本からも多くの選手が参加しています。2001年の第6回大会はアジア初の大会として秋田県で開催し、NHK総合・Eテレ、BS1（大会期間中毎日50分間）で全国放送された他、海外130カ国に配信されるなど、国内外から大変注目されました。

IWGA加盟団体競技（英語競技名アルファベット順）

合気道	体操 ※1	ローラースポーツ ※1、※2
エアースポーツ	ハンドボール ※1	ラグビー ※1
アーチェリー ※1	ホッケー ※1	サンボ
野球・ソフトボール ※2	柔術	スポーツクライミング ※1、※2
ビリヤード	空手 ※2	スカッシュ
ボディビルディング	キックボクシング	相撲
ブールスポーツ	コーフボール	サーフィン ※1、※2
ボウリング	ラクロス	綱引
カヌー ※1	ライフセービング	水中スポーツ
キャスティング	ムエタイ	水上スキー・ウエイクボード
ダンススポーツ ※3	ネットボール	武術
フィストボール	オリエンテーリング	
フロアボール	パワーリフティング	
フライングディスク	ラケットボール	

2023年8月現在 39競技
(※1) 夏季オリンピック競技
(※2) 2020五輪追加競技
(※3) 2024五輪追加競技

※ワールドゲームズは、オリンピック競技であっても、その「種目」がオリンピックに採用されていなければ、4年に一度のワールドゲームズ大会でその種目を実施することが可能となっています。また、その競技団体（IF）はIWGAに加盟することができます。

国際ワールドゲームズ協会　International World Games Association (IWGA)

国際ワールドゲームズ協会（IWGA）は、国際オリンピック委員会（IOC）と連携協定を締結している団体で、4年に一度ワールドゲームズ大会を開催するほか、IWGA加盟団体の競技種目の普及・発展のための活動を行っています。加盟条件は、IOC承認競技団体か非オリンピック競技種目の世界選手権大会を統括している夏季・冬季オリンピック競技団体であることで、2015年時点で既にIWGAに加盟している団体は例外とされています。加盟申請はIWGA理事会・年次総会で審議され可否が決定されます。2017年総会には、バスケットボール、自転車、近代五種、レスリング、トライアスロンの夏季オリンピック競技団体が非オリンピック種目をワールドゲームズに加えるために加盟申請をしましたが、すべて否決されました。オリンピックとの違いを明確にするために、1種目でもオリンピックに採用されている競技は加盟できなかったIWGA設立時のルールを踏襲する結果となりました。会長、副会長、財務担当理事、理事は、4年毎に加盟団体が推薦した候補者から総会での選挙で選出されますが、2014～2017年はGAISF元理事である師岡文男（フライングディスク）が日本人で初めて選出されました。2023～2026年の理事会メンバーは全員ヨーロッパ人で構成されており、今後、アジア、アフリカ、オセアニア、アメリカから理事が選出されることが望まれます。

会長	José Perurena López　ホセ・ペルレナ・ロペス（スペイン）	カヌー
副会長	Tom Dielen　トム・ディーレン（スイス・ベルギー）	アーチェリー
専務理事（CEO）	Joachim Gossow　ヨーヒム・ゴッソウ（ドイツ）	ワールドゲームズ2005スポーツディレクター
財務担当理事	Lukas Hinder　ルーカス・ヒンダー（スイス）	ダンススポーツ
理事	Anna Arzhanova　アンナ・アルツァノーヴァ（ロシア）	水中スポーツ
	Jan Fransoo　ヤン・フランソー（オランダ）	コーフボール
	John Liljelund　ジョン・リルジェルド（フィンランド）	フロアボール
	Volker Bernardi　フォルナー・ベルナルディ（ドイツ）	フライングディスク
終身名誉会長	Ron Froehlich　ロン・フローリック（アメリカ）	体操 IWGA2代目会長

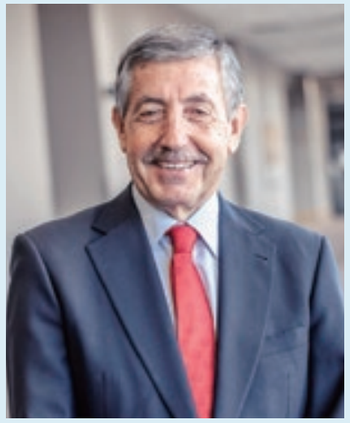
理事任期：2023年総会～2026年総会（4年間）

IWGA Headquarters（本部）　Avenue de la Gare12 1003 Lausanne, Switzerland
Phone +41 (0)21 601 03 21　Email office@iwga.sport　URL www.theworldgames.org

写真提供：IWGA

国際ワールドゲームズ協会 会長挨拶

皆さまは 私たちの家族です



国際ワールドゲームズ協会
会長　ホセ・ペルレナ・ロペス

International World Games Association (IWGA)
President José Perurena López

カヌースプリントの元スペイン代表選手。2010年から2014年まで国際ワールドゲームズ協会(IWGA)の理事を務め、2014年会長に就任。国際カヌー連盟(ICF)では、2000年から2004年まで事務局長、2008年から2021年まで会長、現在名誉会長。国際オリンピック委員会(IOC)では、2011年から2019年まで委員を務めた。

THE WORLD GAMES

国際ワールドゲームズ協会(IWGA)

1980年設立。国際オリンピック委員会(IOC)の承認と支援を受け、39の国際競技連盟からなる非営利の独立した国際組織
本部:スイス・ローザンヌ

www.theworldgames.org

平和と調和によって共存できることを証明した大会

私たちIWGAは、ワールドゲームズが終わるたびに、大会の呼称を考えます。そこで今大会は、「Comeback Games(戻ってきた大会)」と呼ぶことにしました。新型コロナウイルス感染症の大流行で、あらゆるスポーツが活動を大きく制限された2年間を経て、開催を待ち望んでいたアスリートと加盟団体が一堂に会し、最高のパフォーマンスを見せてくれました。素晴らしいスポーツの祭典であることを証明しただけでなく、誰しもが平和を渇望しているこの不安定な時代に、懸命に競い合いながらも、平和と調和によって共存できることを示してくれました。

とはいえ、今大会は単なる「戻ってきた大会」ではなく、「アスリートたちの大会」でもありました。バーミングハムでの大会期間中、スポーツの檜舞台に戻ってきたことを選手たち自身が喜んでいたのは明らかでした。彼らはワールドゲームズの本質、すなわち「激しく競い合い、平和と調和に生きる」を懸命に体現しながらも心から楽しんでいました。IOCのトーマス・バッハ会長が今大会を訪れた際、「選手が幸せであれば私たちも幸せです。そして選手の皆さんはここバーミングハムで幸せを体感しています」と話されました。

公式ソーシャルメディアを通じて、選手たちの喜びに満ちた声が私たちのところに届いています。これは確かな数字としても表れています。今大会を評価するため、Quantum社に調査を委託したところ、参加選手の86%が「満足」、「とても満足」と答えています。これらの評価だけでなく、10日間の競技期間中に34の競技が実施され、観戦チケットを377,000枚発行し、99カ国3,457人の選手が金メダルを目指して競い合い、過去最多の73カ国の選手がメダルを獲得したことから、これがワールドゲームズ、すなわち世界大会であることが明らかになりました。

日本におけるワールドゲームズの重要性

今大会、日本代表選手団は素晴らしい結果を残しました。金メダル10個、銀メダル11個、銅メダル12個を獲得し、国別総合メダル数で日本は6位でした。この事実は、過去の全大会と比較しても、ワールドゲームズが日本で重要性を増していることの証だと思います。過去のメダル獲得数は、2017年ポーランド・ヴロツワフ大会で22個、2013年コロンビア・カリ大会で10個、2009年チャイニーズタイペイ・高雄大会で15個、2005年ドイツ・デュイスブルク大会で18個でした。2001年日本・秋田大会では、総メダル数25個を獲得し、国別総合メダル数で7位でした。初開催となった1981年のアメリカ・カリフォルニア州サンタクララ大会以降の全大会を平均しても、日本は上位10カ国に入っています。ワールドゲームズと日本は親和性があり、過去40年以上にわたってその関係の持続可能性が示されてきたことがわかります。

日本においてワールドゲームズの重要性が増していることは、別のデータからも確認できます。日本代表選手の出場人数はバーミングハム大会で138人、ヴロツワフ大会で98人、カリ大会で76人です。アジアの国・地域でこれを上回る選手数を今大会に送り出した国はありません。加えて、大会最年少である14歳で新種目ドローンレースに出場した上関風雅さんも日本代表選手です。1981年のサンタクララ大会に出場された伊差川浩之さんは、今回パワーリフティングのコーチとして参加されました。私たちは彼の献身を称え、Instagramの公式生配信番組に彼の話を投稿しました。

さらに忘れてはならないのが、日本選手団が大会期間中、ハイライトとなるワンシーンを提供したことです。アメリカ対日本のソフトボールのリターンマッチを1万人を超える観客が見守りました。アメリカ代表チームは、東京オリンピックで敗れた後、雪辱を晴らそうと燃えていました。この決勝戦は今大会でもっとも待ち望まれた試合のひとつでした。この対戦が町中の話題にとどまらなかったことは、ワールドゲームズがスポーツの世界で重大な意義を有しているといえます。大会の模様を伝えた番組は、世界で2億7,000万人の人々が視聴しました。

日本が残したワールドゲームズのレガシー

日本とワールドゲームズのつながりは、まがいもない成功例です。1981年の第1回大会では参加58カ国に日本も名を連ねていました。そして、何といっても2001年秋田大会はレガシーを残しました。デュイスブルクから来た視察団は、秋田のワールドゲームズプラザに深い感銘を受け、自国開催時に競技とは別に文化的なプログラムを実施しようと考えたのです。それ以来、大会期間中、このプログラムを提供することが各開催国の義務となっています。

2001年大会のもうひとつのレガシーは日本ワールドゲームズ協会(JWGA)です。1991年に設立されたJWGAは、2001年の第6回大会を秋田県で開催するまでに成長しました。以降、JWGAはワールドゲームズにおいて日本を重要な地位につけるために大きな役割を果たしています。皆さまは真の「ファミリー」です。その意義は、JWGAの役員の一人である師岡文男氏がIWGAにおいても4年間役員を務めていたことからもわかります。

日本ワールドゲームズ協会は、IWGAと国際スポーツ団体との協力関係におけるロールモデルといえるでしょう。現在、イスラエルやその他複数の国に同様の組織があります。ポーランドでは、2017年大会後に同様の団体が設立されました。国内オリンピック委員会(NOC)がオリンピックに採用されていない競技を担当する際、NOCに緊密な協力を求めることが現在の私たちの戦略の一つです。その他の国では、JWGA等の中央競技団体(NSO)がIWGAの協力相手になります。

アスリート支援における日本の姿勢は模範

私たちは、選手こそが舞台の中心にいて、最高のコンディションで競技に臨むべきであると考えています。これを叶えるには、各国による自国の選手への支援が不可欠です。今大会における日本の取り組みは模範的でした。思い出すのは、日本人選手の間で新型コロナウイルスの感染が起きたとき、担当者が感染した選手たちを大変丁寧に対応していたことです。ワールドゲームズでチームJAPANとして戦えることは、選手にとって誇りであり、モチベーションにつながることでもあります。

見落としてはならないのは、アスリートを支援することは未来への投資に繋がるということです。IWGAの加盟競技から、数多くの競技や種目がオリンピック競技に採用されています。東京五輪での例を挙げると、2017年ヴロツワフ大会後、空手、スポーツクライミング、ローラースポーツ(スケートボード)、ソフトボール、サーフィンが採用されました。パリ五輪では、今大会の一種目であったブレイキンも新たに加わります。逆に言えば、ワールドゲームズ・ファミリーから選手を登用すれば、オリンピックの出場選手を1から決める必要はありません。ブレイキンを例にとりましょう。日本は金メダル1個と銅メダル2個を獲得しました。パリ五輪でもメダル獲得は夢ではないのです。

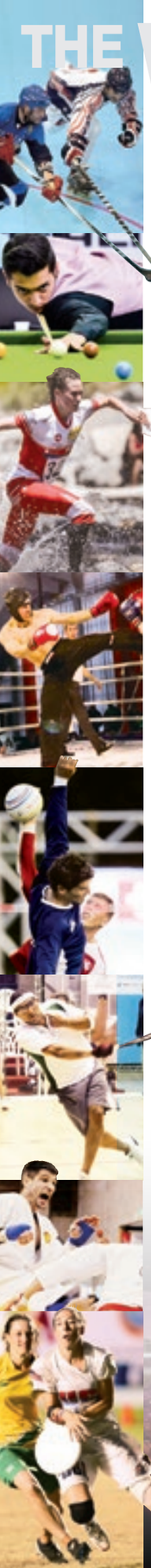
IWGAとJWGAの連携を強化

特筆すべきは、今年韓国・ソウルで行われたANOC(国内オリンピック委員会連合)国際会議でのNOCとNSOの結びつきの重要性です。IWGAのヨーヒム・ゴッソウ最高責任者は、IWGAとJWGA間の連携協定締結(MOU)に触れ、今大会中、IWGAはJWGAの渡邉一利副会長とMOUの調印を行いました。本MOUは、両組織のこれまでの協力関係が次の水準に移行したことを証明するものです。ワールドゲームズを各国により知ってもらうために、JWGAとの連携は大切です。オーストリア、イスラエル、ラトビアのNSOとも同様の合意書を締結しました。主な狙いは、選手たちが自国で相応の評価を受けられるようにすることです。これは国内競技団体(NF)の支援がなければ実現できません。バーミングハム大会への皆さまのご尽力がこれを裏付けています。私たちにとっても、これは重要なことであり、IWGAとワールドゲームズ・ファミリーの関係強化につながります。

最後に、ワールドゲームズ2022での日本選手団は世界に誇れるものでありました。現在、39の加盟団体がワールドゲームズ・ファミリーになっています。前述したように、JWGAもファミリー団体の一部です。これはワールドゲームズの発展にとって喜ばしいことであると同時に、JWGA所属団体の選手たちにとっても大変嬉しいことです。このことを心に留め、私たちは一丸となって次回第12回大会の開催都市である中国・成都に向かっています。#Road to Chengdu(成都への道)での皆さまのご支援をお願いします。そして何より、2025年8月7日の開会式で、日本選手団の皆さまをスタジアムにお迎えする日を心待ちにしています。

IWGAとJWGA、連携協定を結ぶ

今大会中の7月12日、IWGAのホセ・ペルレナ・ロペス会長(IOC元委員)と日本ワールドゲームズ協会(JWGA)の渡邉一利副会長との間で連携協定(MOU)の調印が行われました。ワールドゲームズにおいて日本初のMOUとなり、今後、ワールドゲームズの普及に向けたプロモーションや、ワールドゲームズを通じた世界平和の推進を双方連携のうえ取り組む内容となっています。JWGAの役割は今後益々重要となり、日本国内の競技団体をはじめ、関係諸機関ともより関係を密にし、ワールドゲームズを推進して参ります。



IOCとの関係

ワールドゲームズは、第3回大会（1989年）から国際オリンピック委員会（IOC）の後援を受けています。秋田大会開催前年の2000年10月には、IOCが今後恒久的にワールドゲームズを支援する旨の覚書の調印がIOCとIWGAの間で行われました。この覚書により、IOCは「ドーピングテストの費用を負担する」「知識・技術面での支援・援助を提供する」「各国オリンピック委員会にワールドゲームズの参加者を支援するよう要請する」などの支援を恒久的に行うことになりました。2014年12月、モナコで開催されたIOC臨時総会において、中長期改革案「オリンピック・アジェンダ2020」の40提言が全会一致で承認されましたが、その提言6-1には、「IOCとIWGAはスポーツプログラムの構成及びそれぞれの評価に関して緊密に協力する」と記されており、IWGAとIOCの関係はますます強化される方向にあります。2015年10月22日には、IOC会長名で206の各国・地域オリンピック委員会会長宛に2017年ワールドゲームズへの協力を要請する文書が送られ、10月30日のANOC（国内オリンピック委員会連合）総会でIWGA会長が協力要請スピーチを行っています。その翌年、2016年4月19日には、2000年10月に締結した覚書に記された連携内容をさらに強化する改訂版覚書の締結がローザンヌで行われています。

SportAccord（スポーツアコード）

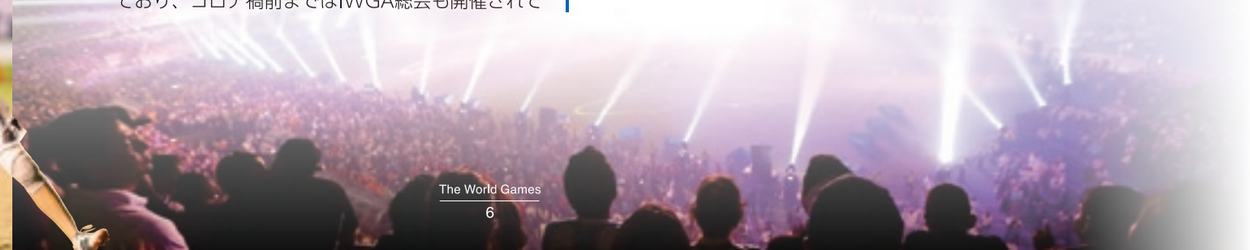
SportAccord（スポーツアコード）は、1967年にローザンヌで設立された国際スポーツ団体連合GAISF（General Association of International Sports Federations）が毎年1週間開催していた世界最大の国際スポーツ会議を、2003年から「SportAccord Convention」の名前で開催する専門組織として発展した非営利の世界的なスポーツビジネスイベント組織で、2022年11月のGAISFの解散を受けて、GAISFの事業を引き継ぐことになりました。

毎年、SportAccordが開催する「World Sport & Business Summit」には、125を超える国際スポーツ連盟（IF）やスポーツに携わる組織の関係者が1週間にわたるイベントに集まり、ASOIF（夏季五輪競技団体協会）・AIOWF（冬季五輪競技団体協会）・ARISF（IOC承認競技団体協会）・AIMS（IOC未承認競技団体協会）等の総会、IOC会議、国際マスターズゲームズ協会総会、国際マインドゲームズ協会総会の他、各種セミナー、展示会などが開催されており、コロナ禍前まではIWGA総会も開催されてきました。2024年からは、ワールドゲームズ関連の各種会議が開催される場としても再開される予定です。

【主要事業】

- **世界スポーツ&ビジネスサミットの開催（2024.春　開催地未定）**
- **IFフォーラム開催（2023.11.13-15　スイス ローザンヌ）**
- **ワールドコンバットゲームズの開催（2023.10.20-30　サウジアラビア リヤド）**
- **ワールドアーバンゲームズの開催**
- **ワールドマインドゲームズの開催**

【ステークホルダー】



IWGA加盟団体の所属IF連合組織

2023年8月現在

	IWGA加盟団体競技		夏季オリンピック	IOC承認	非IOC承認
1	Aikido	合気道			●
2	Air Sports	エアースポーツ		●	
3	Archery	アーチェリー	●		
4	Baseball-Softball	野球ソフトボール	(●)	●	
5	Billiard	ビリヤード		●	
6	Bodybuilding	ボディビルディング			●
7	Boules Sports	ブールスポーツ		●	
8	Bowling	ボウリング		●	
9	Canoe	カヌー	●		
10	Casting	キャスティングスポーツ			●
11	Dance Sport	ダンススポーツ	(○)	●	
12	Fistball	フィストボール			●
13	Floorball	フロアーボール		●	
14	Flying Disc	フライングディスク		●	
15	Gymnastics	体操	●		
16	Handball	ハンドボール	●		
17	Hockey	ホッケー	●		
18	Ju-Jitsu	柔術			●
19	Karate	空手	(●)	●	
20	Kickboxing	キックボクシング		●	
21	Korfball	コーフボール		●	
22	Lacrosse	ラクロス		●	
23	LifeSaving	ライフセービング		●	
24	Muaythai	ムエタイ		●	
25	Netball	ネットボール		●	
26	Orienteering	オリエンテーリング		●	
27	Powerlifting	パワーリフティング			●
28	Racquetball	ラケットボール		●	
29	Roller Sports	ローラースポーツ	● (●)		
30	Rugby	ラグビー	●		
31	Sambo	サンボ		●	
32	Sport Climbing	スポーツクライミング	● (●)		
33	Squash	スカッシュ		●	
34	Sumo	相撲		●	
35	Surfing	サーフィン	● (●)		
36	Tug of War	綱引		●	
37	Underwater Sports	水中スポーツ		●	
38	Waterski & Wakeboard	水上スキー・ウエイクボード		●	
39	Wushu	武術		●	
			9	24	6

(●) 東京2020オリンピック追加競技　　(○) パリ2024オリンピック追加競技

IF連合組織
●ASOIF（Association of Summer Olympic International Federations）　オリンピック夏季大会競技団体連合　［33 IF加盟］
●AIOWF（Association of International Olympic Winter Sports Federations）　オリンピック冬季大会競技団体連合　［7 IF加盟］
●ARISF（Association of Recognised International Sports Federations）　IOC承認国際競技団体連合　［42 IF加盟］
●AIMS（Alliance of Independent Members of SportAccord）　IOC非承認国際競技団体連合　［20 IF加盟］

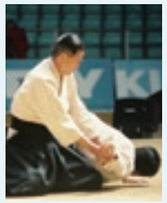
国際ワールドゲームズ協会（IWGA）加盟団体競技

International World Games Association Member Sports

2023年8月現在 39競技　（※1）夏季オリンピック競技　（※2）2020五輪追加競技　（※3）2024五輪追加競技

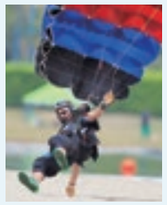
JWGA加盟団体競技　芸術　球技　武道　標的　筋力　トレンド

合気道　Aikido



古流柔術の一派からおこった武術の一つで、人間の内面的充実を図ることを主眼としたスポーツです。間合いを活かして瞬時に相手の死角に入る入身（いりみ）と、身体の中心をしっかりさせて用いる円転のさばきをもとに成り立っており、自ら攻撃するのではなく自らに加えられる暴力を制するものとして、他武道に比べて精神性が重視されています。

エアースポーツ　Air Sports



大空をフィールドにグライダー、ドローン、パラグライダーを操縦し飛行速度や距離、着陸の正確さや、パラシューティング（スカイダイビング）を行い上空での演技の出来栄えやフォーメーションの数などを競います。2022年の第11回大会では、ドローンからの映像を専用ゴーグルで見ながら操縦し、タイムを競うドローンレーシングが実施されました。

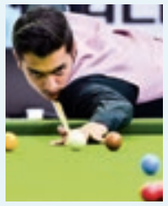
アーチェリー（フィールド）※1　Archery

標的は直径20cm、40cm、60cm、80cmの4種類の大きさで、弓の種類により「ベアボウ」「リカーブ」「コンパウンド」の3部門に分けられ、距離が表示されているマークドコースと表示されていないアンマークドコースを3射ずつ行射し、ゴルフのようにラウンドして、最短5mから最長60mの間で設置された的を射て、的に当たった矢の得点を競います。

野球-ソフトボール※2　Baseball-Softball

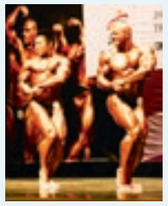
野球とソフトボールは、IWGA創立時には別団体で、オリンピック公式競技の期間IWGAを退会しましたが、2012年ロンドンオリンピックから公式競技不採用になったため、2013年に合併してIWGAに再加盟しました。2022年の第11回大会にはソフトボール女子が公式競技に復帰しました。

ビリヤード　Billiard



球を投げたり打ったりするスポーツは数多くありますが、キュースティックを使って球を「撞（つ）く」のはビリヤードだけです。そのため現在ではキュー・スポーツとも呼ばれており、幅広い年齢層に親しまれています。競技は大きく分けて「キャロム」「プール（ポケット）」「スヌーカー」の3種目があります。

ボディビルディング　Bodybuilding

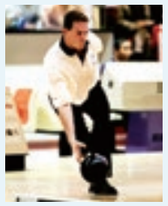


各種スポーツの基礎体力作り、生涯スポーツ、競技スポーツの3つの要素を含んだスポーツです。体の筋肉を鍛え抜くことによって、芸術作品のような肉体の逞しさと美しさを築きあげ、その見事さを披露します。大会では究極に近いまで鍛え上げた筋肉を各ポージングで披露し、筋肉のバランスや表現能力が審査されます。

ブールスポーツ　Boules Sports

ワールドゲームズでは「スポールブール」と「ペタンク」が実施されます。スポールブール種目としては、コート内を走りながら、自分のボールを目標球に投げ当てるティールゲームが行われます。ペタンクは平坦なコートで目標球に金属球を近づけ合う球技で、ときには邪魔な相手球を弾き出して得点を競います。

ボウリング　Bowling



ワールドゲームズでは日本でもなじみの深い「テンピンボウリング」が行われます。10本のピンを目がけてボールを転がし、倒れたピンの本数でスコアを競うスポーツです。1ゲーム10フレームで構成され、1フレームに2回まで投げることができます。（※第10フレームは3回まで）種目は男女別で「ダブルス」「シングルス」が行われます。

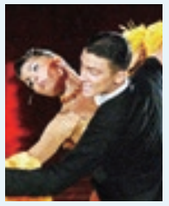
カヌー（マラソン・ポロ）※1　Canoe

カヌーマラソンは、1周約2kmの周回コースを10周漕ぎ切る競技です。1周ごとにポーテージという陸走エリアに上がり、艇を持ちながら走り抜け、再び水上でパドリングを行います。カヌーポロは、水上2mに設置されている相手ゴールにボールを入れ点数を競います。激しいプレーが多く、水上の格闘技と呼ばれています。

キャスティング　Casting

競技は大きく2つに分類されており、釣りに使う竿やリールを使って、重りや毛ばりをどれだけ正確に投げられるかを競う「アキュラシー」、どれだけ遠くに投げられるかを競う「ディスタンス」があります。もともとは釣りから生まれたスポーツですが、より競技性を高めるために大会は陸上で行われています。

ダンススポーツ※3　Dance Sport



現在、映画やテレビなどを通して、愛好者が急増中のスポーツです。初心者から楽しめますが、上級者になるためには、高度の技術と肉体的鍛錬、長期の指導が要求されます。種目としては、「スタンダード」、「ラテン」や「ブレイクダンス」、「ロックンロール」、「サルサ」、「車いすダンス」、「カントリー＆ラインダンス」があります。

フィストボール　Fistball

バレーボールの前身といわれており、5人対5人で芝生のコート（50m×20m）で高さ2mのストリング（ひも）をはさみ、得点を競います。相手が3打以内で返球できない場合は得点1となり、1セット20点、3セットマッチで2セット取れば勝ちです。ボールを片手で打つこと、1バウンドまではOKというところが特徴です。

フロアボール　Floorball

ボードで囲まれた40m×20mの室内リンクで行われるチーム制の球技です。1チーム、1人のゴールキーパーと5人のフィールド・プレーヤーで構成され、穴のあいたプラスチック製のボールを相手チームのゴールに入れて得点を競います。試合時間は1ピリオド20分間で3ピリオド行われます。2014年からワールドゲームズの競技となりました。

フライングディスク　Flying Disc

プラスチック製ディスクを使う12種目の総称で、IOC・IPC承認競技です。7人でディスクをパスで運び、敵陣エンドゾーン内でディスクキャッチすると得点となるセルフジャッジ制団体種目「アルティメット」（中学校学習指導要領掲載）と「ディスクゴルフ」が公式種目です。

体操※1　Gymnastics

新体操、アクロバット体操、エアロビック、パルクール、トランポリン、タンブリングの6種目が実施されます。技の難易度や美しさなどを競います。新体操はオリンピックでは団体と個人総合が行われますが、ワールドゲームズでは個人種目別で行われ、トランポリンはワールドゲームズでは2人で行うシンクロナイズドが行われます。

ハンドボール（ビーチハンドボール）※1　Handball

浜辺で行うハンドボールです。屋内でのハンドボールとはルールが異なり、砂浜ならではのプレーが魅力です。27m×12mの砂浜のコートで、前半・後半10分、4人対4人で得点を競うスポーツです。ヨーロッパ、中東、南米で盛んに行われており、ユースオリンピックの公式競技としても採用されています。

ホッケー（インドア）※1　Hockey

インドアホッケーは、ゴールキーパー1名とフィールドプレイヤー5名の計6名で構成され、体育館などの屋内で行われます。コートとゴールの大きさはフットサルと同じですが、サイドラインに木の角材が使われていることが特徴です。2005年ワールドゲームズデュイスブルク大会では公開競技として実施されました。

柔術　Ju-Jitsu

日本古来の徒手（とじゅ）や短い武器を使った攻防の技法を中心としたスポーツです。柔術関連の流派は500ほどありますが、唯一競技として国際ルールに則り、試合を実施しているのがこの柔術競技で、突き、蹴り、関節技、投げ技などで勝敗を競う格闘系と、2人1組で決められた攻撃の形に対する防御の形を競う演武系があります。

空手※2　Karate

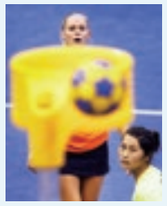
空手競技は「形」と「組手」の2つの競技があります。形は、相手の動きを想定して構成され創られたものを演武し正確さ、力強さ、スピード、リズム、バランス等を競います。組手は、２人の選手が互いに目標部位に突き・蹴り・打ち等の技を使い、攻防を競います。相手の攻撃部位に当てず、直前でコントロールし、技を正確に決めるところに醍醐味があります。

キックボクシング　Kickboxing

ローキックや肘打ち、ボディ・顔面への膝蹴りが認められているボクシングです。試合時間は3分1ラウンドで1分のインターバルを挟み3～5ラウンド行われ、相手をダウンさせ10カウントを奪うとノックアウト勝ち、最終ラウンドまで両者がノックアウトされなかった場合は判定で勝敗が決められます。2014年からワールドゲームズ競技となりました。

THE WORLD GAMES

コーフボール　Korfball



「コーフ」とはオランダ語で「バスケット」を意味し、リング状のバスケットにボールを投げ入れて得点を競います。1チーム8人で男女混合、30分ハーフで行われます。シュートはどこからでも打つことができ、ドリブルが禁止のためパス中心のゲーム展開になります。また異性をマークしたり接触プレーも禁止されています。

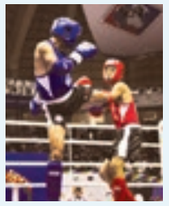
ラクロス　Lacrosse

棒の先に網のついたスティック（クロス）を使い、テニスボール大のゴム製のボールを180cm四方のゴールまで運んで得点を競うチーム制の球技です。サッカーと同じくらいのグラウンドで行われ、女子は12人対12人、25分×2の前後半制、男子は10人対10人、20分×4のクオーター制で行われます。2014年からワールドゲームズ競技となりました。

ライフセービング　Lifesaving

ライフセービング競技は事故が起きたときに必要な救助技術を競うスポーツで、自らの楽しみや体力向上などの目的ばかりでなく、実際の救助活動で「命を守る」という社会貢献的な目的のために行うスポーツです。プール種目と、サーフ（海）種目があります。

ムエタイ　Muaythai



キックボクシングと似たタイ発祥のスポーツです。キックボクシングよりも蹴りが多いことが特徴です。3分1ラウンドで2分のインターバルを挟み通常5ラウンド行われ、相手をダウンさせ10カウントを奪うとノックアウト勝ち、最終ラウンドまで両者がノックアウトされなかった場合は判定で勝敗が決められます。2014年からワールドゲームズ競技となりました。

ネットボール　Netball

バスケットボールを女性用のルールにアレンジしたものが始まりといわれており、コートはセンターサードと2つのゴールサードに分けられます。ゲームは4クォーター制でプレイヤーは7名です。コート内の行動範囲がポジションごとに決められており、この範囲を出るとボールを持つ持たないにかかわらず、オフサイドの反則となります。

オリエンテーリング　Orienteering

オリエンテーリングとはドイツ語で「方向を知る」と「走る」を意味する合成語です。地図とコンパスを用いて山野の各所に設定された各地点を通過してゴールまでの速さを競うスポーツで、地図を読む力と脚力が必要とされます。競技の公正を守るため、直前にコースが設置されます。山野を猛スピードで駆ける非常にハードなスポーツです。

パワーリフティング　Powerlifting

人間の力強さを培うためにさまざまな体力、筋力トレーニング方法が考案されましたが、その成果を試す手段として競技化されたものが始まりといわれています。基本的運動要素「立つ・押す・引く」を「スクワット」（脚力）、「ベンチプレス」（腕力）、「デッドリフト」（背筋力）という3つの動作におきかえて、その力の極限を競うスポーツです。

ラケットボール　Racquetball

2人もしくは4人の選手が交互にボールを壁に打ち合う競技です。スカッシュと似ていますがラケットボールは壁・床・天井の6面を使うことができます。試合は15-15-11点の3ゲームマッチで行われます。天井や壁を上手く使い、ボールの方向や角度、スピード、スピンによって様々な球筋を繰り出す事もでき、運動能力とともに頭脳プレーも要求されます。

ローラースポーツ※1、※2　Roller Sports

ワールドゲームズでは、タイムやポイントを競う「インラインスピード」、1チーム5人で得点を競う「ローラーインラインホッケー」、ジャンプやスピン等の技術の正確さや美を競う「アーティスティック」の3種目を実施します。五輪種目となった「スケートボード」も種目のひとつです。

ラグビー※1　Rugby

各15人の2チームに分かれて楕円形のボールを奪い合い、敵陣のゴールを目指すスポーツです。「持って走る」「放る」「蹴る」のいずれかでボールを運びます。選手たちは互いの体をぶつけ合い、ボールを巡って激しい攻防を繰り返します。ボールを前に放ってはならず、手でパスする際は、自分より後ろにいるプレーヤーにしかできないのも大きな特徴です。

サンボ　Sambo

柔道とレスリングを合わせたようなスポーツで、投げ技や関節技等で勝敗を競います。投げ技による一本勝ちや押さえ込みによるポイント加算などルール面でも柔道と共通する部分も多く、大きく異なる点は、膝やアキレス腱、股関節等の下半身に対しても関節技の使用が認められている点と締め技がない点です。

スポーツクライミング※1、※2　Sport Climbing

人工壁にホールドと呼ばれる突起物を設置し、手足で保持して登るスポーツです。12m以上の壁に設けられたルートの到達高度を競う「リード」、15mの壁にセットされた同一の２本のルートを隣合わせで登る速さを競う「スピード」、３～５mの壁に複数の課題が組まれ、その課題の完登数を競う「ボルダリング」があります。

スカッシュ　Squash

四方を壁に囲まれたコートの中で、小さなゴムボールをワンバウンド以内で交互に打ち合う立体ビリヤードのようなラケット競技。前後左右の壁を使って瞬時にショットの角度や方向を変えることができるため、頭脳的でスピード感溢れるプレーが楽しめます。試合は1ゲーム11点先取。10－10になったら2点差まで継続。5ゲーム又は3ゲームマッチで行われます。

相撲　Sumo

相撲は、土俵に上がってから立合いに至るまでに定められた礼法を遵守し、まわし以外は身に寸鉄も帯びず、正々堂々と戦うことを理念としています。狭い土俵の中で相手を投げたり、土俵の外へ出したりするなど勝負の判定が極めて単純で、しかも短時間で勝負が決する競技です。

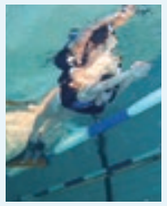
サーフィン※1、※2　Surfing

ウォータースポーツの一つで、サーフボードに立ち、波が作り出す斜面を滑走します。原則として一つの波に一人のサーファーと決められており、波がブレイクする（波が崩れる）ピークに一番近いサーファーが波に乗る優先権があります。サーフィンは採点競技で、多くの技ができる波を選び、スピードにのると高得点につながります。

綱引　Tug of War

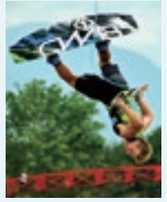
1チーム8人の体重別クラスで、アウトドアおよびインドアで行われます。時間制限はなく、2つのチームが1本の綱を両側から引き合って、4mの距離を引ききった方が勝ちですが、体力よりもチームワークが重要で、ロープを通してさまざまな駆け引きが展開されます。古くは五穀豊穣を占う儀式としても行われていました。

水中スポーツ　Underwater Sports



フィンスイミングは、イルカの尾鰭に似た1枚の大きなモノフィンを装着し、水中をウェービングして50mを無呼吸で泳ぎタイムを競うアプニア、モノフィンとセンタースノーケルで呼吸し水面を泳ぐサーフィス（100m、200m、400m）、2枚フィンとスノーケルを装着して泳ぐビーフィン（50m、100m）と4×100mサーフィスリレーが実施されています。

水上スキー・ウエイクボード　Waterski & Wakeboard



水上スキーは競技としてジグザグに設定されたブイをクリアしていく「スラローム」、豪快に空中を飛ぶ「ジャンプ」、演技を競う「トリック」が行われます。その他、スキーを履かず裸足で水上を滑る「ベアフット」や、１枚板に横乗りする「ウエイクボード」、「ウエイクサーフィン」という競技があります。

武術　Wushu

数千年の歴史をもつ中国武術には数多くの武術の流派や種類があり、現在では競技スポーツとして、「武術」の中国語の発音「WUSHU（ウーシュー）」の名称で国際的に普及しています。格闘形式の「対抗性競技」と、一定の動作を単独で演武し、技術水準を評価する「演武競技」の2種類があります。

公式YouTubeチャンネルで大会の模様を公開中！

ワールドゲームズ競技や
前回大会の模様をお届けしています。

https://youtube.com/@theworldgamestv

大会における実施競技の変遷

開催年	1981 第1回	1985 第2回	1989 第3回	1993 第4回	1997 第5回	2001 第6回	2005 第7回	2009 第8回	2013 第9回	2017 第10回	2022 第11回	2025 第12回
開催地	アメリカ サンタクララ	イギリス ロンドン	旧西ドイツ カールスルーエ	オランダ ハーグ	フィンランド ラハティ	日本 秋田	ドイツ デュイスブルク	チャイニーズタイペイ 高雄	コロンビア カリ	ポーランド ヴロツワフ	アメリカ バーミングハム	中国 成都
参加選手数	1,265名	1,550名	1,965名	2,275名	1,725名	2,193名	3,205名	2,908名	2,929名	3,214名	3,457名	—
参加国・地域数	9	57	49	49	75	93	93	84	98	102	99	—
公式競技	15競技	20競技	17競技	21競技	23競技	22競技	26競技	26競技	26競技	27競技	30競技	30競技
エアースポーツ					●	●	●	●	●	●	●	○
アーチェリー（フィールド）		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
バドミントン	●											
野球	●											
ソフトボール	●	●									●	○
ビーチバレーボール					●							
ビリヤード						●	●	●	●	●	●	○
ボディビルディング	●	●	●	●	●	●	●	●				
プールスポーツ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ボウリング	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
カヌー							●	●	●	●	●	(○)
カヌー（ドラゴンボード）												(○)
キャスティング	●	●	●	●	●	●	●					
ダンススポーツ					●	●	●	●	●	●	●	(○)
ダンススポーツ（車いすダンス）												(○)
フィストボール		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
フロアボール										●	●	○
フライングディスク						●	●	●	●	●	●	○
体操 アクロバット体操				(●)		(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(○)
体操 エアロビック					(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(○)
体操 パルクール											(●)	(○)
体操 新体操種目別						(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(○)
体操 トランポリン	●	●	●	●	●	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(○)
体操 タンブリング	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	(○)
ハンドボール（ビーチ）									●	●	●	○
柔術					●	●	●	●	●	●	●	(○)
柔術（パラ柔術）												(○)
空手	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
キックボクシング											●	○
コーフボール		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ラクロス										●	●	○
ライフセービング		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ムエタイ										●	●	○
ネットボール		●	●	●	●							
オリエンテーリング						●	●	●	●	●	●	○
パワーリフティング	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ラケットボール	●	●		●				●	●		●	○
ローラースポーツ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ラグビー（7人制）						●	●	●	●			
サンボ		●		●								○
スポーツクライミング							●	●	●	●	●	○
スカッシュ					●		●	●	●	●	●	○
相撲							●	●	●	●	●	
テコンドー	●	●	●	●								
トライアスロン				●								
綱引	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
水中スポーツ（フィンスイミング）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	(○)
水中スポーツ（パラフリーダイビング）												(○)
水上スキー・ウエイクボード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
ウエイトリフティング（女子）					●							
武術												○
追加競技	なし	なし	3競技	4競技	5競技	5競技	6競技	5競技	4競技	4競技	5競技	5競技
合気道			●	●	●	●	●					
アメリカンフットボール			●				●			●		
（フラッグフットボール）											●	○
パーンゴルフ			●									
ボールリヨネーズ					●							
カヌー（カヌーマラソン）									●			
チアリーディング（ダブルボム）												○
ドラゴンボート							●	●				
馬術（ボルティング）				●								
フロアボール					●							
ゲートボール						●						
ハンドボール（ビーチ）						●	●	●				
インドアホッケー							●					
インドアローイング										●		
キックボクシング										●		
ラクロス男子											●	
ミリタリーペンタスロン					●							
モーターサイクリング							●					
パワーボート（モトサーフ）												○
ペサパロ					●							
ラグビー（車いすラグビー）											●	○
ソフトボール								●	●			
スピードウェイ										●		
相撲						●						
チュックボール								●				
トライアスロン（デュアスロン）									●		●	○
綱引（女子）				●		●						
水上スキー（ペアフット）				●								
武術								●	●		●	

●追加競技はIWGAとIOC・IPC・開催都市が協議し決定されます。（追加競技は2022年の第11回大会まで「公開競技」として実施）
＊トランポリンは1999年まで単独競技Fで、タンブリングはその種目の1つ。

イチからわかる ワールドゲームズ Q&A

ワールドゲームズについて、よく聞かれる質問を、Q&A方式でまとめました。

入門編

ワールドゲームズって？

世界のトップアスリートによる国際総合競技大会です

世界最高レベルのアスリートが競い合う国際総合競技大会です。国際ワールドゲームズ協会（IWGA）主催、国際オリンピック委員会（IOC）後援により、公式・公開競技が実施され、日頃なじみ深いスポーツから目新しいスポーツまで、約11日間、熱戦が繰り広げられます。これまでに11回、世界11の都市で開催されました。

代表選手はどうやって選ばれるの？

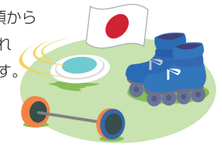
国際スポーツ連盟が各国競技団体に参加要請します

世界最高レベルの選手という基準で、各競技の国際スポーツ連盟（IF）が、参加選手を検討し、各国の競技団体（NF）に選手の派遣を要請することによって、代表選手が決定します。

次の大会（2025年）の実施競技と日本代表選手は？

実施競技は35競技、代表選手は2024年秋頃から順次決定予定

2025年開催の中国・成都大会の実施競技は35の予定です。実施予定競技は左表をご覧ください。代表選手は、各競技の国際スポーツ連盟（IF）からの要請を受け、2024年秋頃から順次決定される見込みです。



もっと知りたい編

どんな競技が競技種目に選ばれるの？

オリンピックに採用されていない競技種目です

- 国際ワールドゲームズ協会（IWGA）加盟の競技の中で、オリンピックに採用されていない競技種目
- 開催地の既存競技施設で実施可能であること。
- 世界的に普及しており世界選手権大会が定期的に行われていること。

などを基本条件に案を作りIWGAの総会で決定します。

オリンピック競技との入れ替えはあるの？

あります

綱引はかつてはオリンピック競技でした。また、バドミントン、トライアスロン、テコンドーなどの8競技は、ワールドゲームズからオリンピックに採用されました。ワールドゲームズは第3回大会以降、IOCによる後援を受け、緊密に連携しつつ、さまざまな支援を受けています。

開催都市はどうやって決めるの？

競技施設が充実していることが決め手です

原則として「既存の施設を利用して競技を行える」または「大会の開催が決定した時点で施設建設を計画中で、大会開催までに完成する施設を利用して競技を行える」ことが条件となります。競技施設の状況以外にも、経済状況や治安、交通事情、宿泊収容規模など総合的な観点から判断されます。

詳しくはホームページをご覧ください。https://www.jwga.jp/worldgames/qa.html

第6回ワールドゲームズは秋田県で開催（2001年）

青空のもと、開会式には1,600人の選手・役員と11,507人の観客が集まりました

1994年10月IWGAロン・フローリック会長（当時）からワールドゲームズの日本開催を打診されたJWGA師岡文男理事は、ミネソタ州立大学秋田校諸星裕学長の協力を得て秋田県の大会招致活動スタートに貢献。JWGAの支援のもと、秋田県は1996年のIWGA総会で第6回ワールドゲームズ（2001年）開催地に選ばれました。秋田県は民間企業、民間人を中心として、（財）秋田ワールドゲームズ2001組織委員会（AOC）を設立、県が全面的にバックアップすることで準備に入りました。アジア地域としては初となる秋田大会は、2001年8月16日～26日の11日間にわたって行われ、93の国・地域から2,193名の選手が参加しました。県内8市町村・21会場の史上初の広域開催で、22の公式競技と5の公開競技を実施し、観客数は30万人を記録しました。大会の模様は、NHKがホスト放送局となり20時間放送され、海外133カ国に映像が流れました。大会経費は22億円で済み、の残余金2億円を基に「あきたワールドゲームズ基金」が設立され、秋田県内への国際大会招致に役立てられました。

詳しくはホームページをご覧ください。https://www.jwga.jp/competitions/akita/

第11回ワールドゲームズ・バーミングハム大会

大会データ概要

2022
BIRMINGHAM, USA

バーミングハムの概要

人 口：21万人

面 積：393.5平方キロメートル

住 民：アフリカ系約73.5%、
白人約24.0%、アジア系約0.8%、
その他約1.7%

日本との時差：−14時間

バーミングハムは、アメリカ合衆国アラバマ州最大の都市で、アパラチア山脈の南端にあります。サンベルトと呼ばれる緑豊かで美しい地域で、全米の「住みやすい都市ベスト10」にも選ばれたことがあります。また、アメリカ南東部における最も重要なビジネスセンターであり、同時にアメリカ最大の銀行業の中心地のひとつとして発展しています。

公式競技（30競技）

エアースポーツ／アーチェリー（フィールド）／ビリヤード／プールスポーツ／ボウリング／カヌー（ポロ・マラソン）／ダンススポーツ／フィストボール／フロアボール／フライングディスク／体操（アクロバット体操、エアロビック、パルクール、新体操、トランポリン、タンブリング）／ハンドボール（ビーチ）／柔術／空手／キックボクシング／コーフボール／ラクロス（女子）／ライフセービング／ムエタイ／オリエンテーリング／パワーリフティング／ラケットボール／ローラースポーツ／ソフトボール／スポーツクライミング／スカッシュ／相撲／綱引／水中スポーツ（フィンスイミング）／水上スキー・ウエイクボード

公開競技（5競技）

アメリカンフットボール（フラッグフットボール）／ラクロス（男子）／トライアスロン（デュアスロン）／車いすラグビー／武術

大会名	ワールドゲームズ2022・バーミングハム大会 （英語表記：The World Games 2022, Birmingham, USA）
大会回数	第11回目
開催時期	2022年7月7日〜17日 ※当初2021年の開催予定、COVID-19の影響により1年遅れての開催
開催場所	アメリカ合衆国 アラバマ州 バーミングハム ● 同国で2回目の開催（1回目：1981年サンタクララ［第1回大会］） ● 世界的なパンデミック、ウクライナ戦争、記録的なインフレという未曾有の事態の中、開催都市（バーミングハム及びアラバマ州）の名を世界中に高めることに成功。経済的・社会的に多大な影響をもたらしたと評価（IWGA）
参加国	99カ国（6大陸）
競技数	公式30競技、公開5競技（58種目）
参加選手（男女比）	3,457名（53：47）
日本からの参加選手	137名（公式17競技、公開4競技）
メダル獲得国	73カ国 上位国 ①イタリア（49個）、②ドイツ（47個）、③ウクライナ（45個）、④アメリカ（44個）、⑤フランス（42個）、⑥日本（33個／金10個、銀11個、銅12個※日本では過去最多）
参加選手 平均年齢	平均年齢：28歳 最年長：71歳（イギリス・綱引） 最年少：14歳（日本・ドローンレーシング）
経済効果	1億6,500万ドル（日本円約220億円：135円/＄換算） ・直接効果、間接効果、誘発効果を含む
観客動員数（男女比）	140,217人（59：41）（チケット購入による）
チケット関連	割当枚数：377,453枚 平均価格：＄24 最低価格：＄12 最高価格：＄99（開会式）
大会の満足度	観客91%、選手86%
テレビ中継	19放送局（61地域） 放映時間：1,640時間
視聴者数	2億6,800万人
オリンピック・チャンネルでの視聴	558万回（https://olympics.com/） 放映時間：266時間36分
ソーシャルメディアのユーザー数	3億3,500万人
ボランティア（男女比）	7,663人（35：65）（延べ16万8,000時間以上のサポート）
市民の意識	バーミングハムとジェファーソン郡の地元市民の90%がワールドゲームズを開催したことを誇りに感じ、89%が地域に良い影響を与えたと感じている。
施設関連	既存施設数：16施設 改修・改装：9施設 新規建設：0施設
主催	国際ワールドゲームズ協会（IWGA）
後援	国際オリンピック委員会（IOC）
主管	バーミングハム組織委員会（BOC）

※ IWGA評価報告書より

第11回ワールドゲームズは、2022年7月7日から17日までの11日間、アメリカ合衆国・バーミングハム市で開催されました。1981年にサンタクララ市で第1回大会が開催されて以来、約40年ぶりのアメリカ開催となりました。公式30競技・公開5競技が実施され、日本からは公式17競技に137名の選手が参加し、33個のメダルを獲得しました。

各国参加選手数・メダル獲得数一覧

99の国と地域から、3,457人の選手が大会に参加。そのうち、73の国と地域がメダルを獲得しました。

順位	国名	参加選手	金	銀	銅	メダル計
1	イタリア	185	13	24	12	49
2	ドイツ	237	24	7	16	47
3	ウクライナ	105	16	12	17	45
4	アメリカ	340	16	18	10	44
5	フランス	167	11	15	16	42
6	日本	*138	10	11	12	33
7	ハンガリー	59	11	7	9	27
8	コロンビア	70	9	10	6	25
9	ベルギー	77	11	4	5	20
10	スペイン	57	6	6	7	19
11	カナダ	132	5	5	5	15
11	ポーランド	71	3	5	7	15
13	中国	40	9	4	1	14
13	イスラエル	51	7	3	4	14
13	スウェーデン	56	3	6	5	14
16	チャイニーズタイペイ	74	1	6	6	13
16	イギリス	110	6	3	4	13
18	メキシコ	78	5	2	5	12
18	スイス	102	5	4	3	12
20	デンマーク	44	4	3	3	10
20	オランダ	79	3	3	4	10
22	タイ	32	4	3	2	9
23	アラブ首長国連邦	13	2	1	5	8
23	ブラジル	74	2	1	5	8
23	ギリシア	15	1	3	4	8
23	韓国	30	1	3	4	8
27	クロアチア	21	2	5		7
28	オーストラリア	98	3	1	2	6
28	チェコ	87		3	3	6
28	エジプト	21	3	2	1	6
31	香港	17	1		4	5
31	インドネシア	6	2	3		5
31	ノルウェー	28	2	2	1	5
31	ポルトガル	47	1	3	1	5
31	セルビア	5	2	2	1	5
31	スロベニア	18	1	1	3	5
37	オーストリア	72	2	1	1	4
37	エクアドル	13	1		3	4
37	カザフスタン	16	1	2	1	4
37	モロッコ	10		4		4
37	スロバキア	12	1	1	2	4
37	ヴァージン諸島	9		3	1	4
43	アルゼンチン	46		1	2	3
43	ブルガリア	10	1	1	1	3
43	チリ	28		2	1	3
43	ニュージーランド	46	1	1	1	3
43	ルーマニア	21		1	2	3
43	シンガポール	15		1	2	3
43	ベネズエラ	15		2	1	3
50	アゼルバイジャン	15	1		1	2
50	ブルネイ	2	1	1		2
50	カンボジア	2	2			2
50	フィンランド	37		1	1	2
50	キルギス	2		1	1	2
50	リトアニア	11	1		1	2
50	マレーシア	5			2	2
50	ウズベキスタン	5		1	1	2
50	ベトナム	5	2			2
59	アルジェリア	1	1			1
59	バーレーン	3		1		1
59	ボリビア	2			1	1
59	ボスニア・ヘルツェゴビナ	3		1		1
59	コスタリカ	9	1			1
59	グアテマラ	6		1		1
59	インド	10			1	1
59	モルドバ	2	1			1
59	モンゴル	7		1		1
59	パナマ	26			1	1
59	ペルー	4		1		1
59	フィリピン	9	1			1
59	カタール	12		1		1
59	南アフリカ	21	1			1
59	チュニジア	1			1	1
—	アフガニスタン	3				0
—	アルバ	2				0
—	キューバ	1				0
—	ドミニカ	2				0
—	エルサルバドル	2				0
—	エストニア	8				0
—	ジョージア	1				0
—	アイスランド	4				0
—	アイルランド	8				0
—	イロコイ連邦	24				0
—	ヨルダン	3				0
—	クウェート	4				0
—	ラトビア	33				0
—	ルクセンブルク	1				0
—	モーリシャス共和国	2				0
—	モンテネグロ	3				0
—	ナミビア	1				0
—	ネパール	2				0
—	北マケドニア	2				0
—	パキスタン	1				0
—	パラグアイ	2				0
—	プエルトリコ	31				0
—	セネガル	1				0
—	スリナム	14				0
—	トルコ	3				0
—	ウルグアイ	2				0
合計		3,457	224	221	222	667

※JWGA非加盟団体競技含む数（1競技1名）

出典：https://twg2022.com/results/

開会式にて、大観衆のスタジアムに入場する日本選手団。ひときわ大きな歓声が上がる

メダル第1号はパワーリフティング 好発進の日本選手団

2022年7月7日、プロテクティブスタジアムでワールドゲームズ2022バーミングハム大会の開会式が行われた。世界的なパンデミックの影響で一年延期となり、多くの措置を講じた上で実施に至った本大会。開催を待ち望んでいた27,000人もの観衆の大歓声とともに、11日間の夢の舞台が開幕した。

競技初日に行われたのは、パワーリフティング。ワールドゲームズ6大会連続出場を果たした福島選手が堂々の金メダルを獲得し、今大会メダル第1号となった。さらに男子軽量級では、初出場の佐竹選手が金メダルを獲得。佐竹選手は「念願の出場。最高の結果を残すことができた」と喜びを語った。続く空手では、男子個人形の本選手が金メダル、女子個人形の大野選手が銀メダル、女子組手50kg級の宮原選手が銅メダルを獲得するなど、日本選手団は初日から好調なスタートを切った。

空手 男子形で優勝した本一将選手

競技2日目の相撲では、男女で7個（金3・銀3・銅1）のメダルを獲得し、並み居る世界の強豪を圧倒する結果に。試合を一目見たいと、会場には朝早くから親子連れなど多くの観客が詰めかけ、終始歓声が響き渡った。

今大会から体操の種目となったパルクールで、銅メダルを獲得した泉ひかり選手

続く競技3日目、注目の新種目ブレイキン（ダンススポーツ）では、湯浅選手が圧倒的な実力をみせ、見事優勝。福島選手、半井選手も熾烈なマッチアップの末、それぞれ銅メダルを獲得した。そして、同会場で行われた種目パルクール（体操）では、泉選手がスピードで銅メダルを勝ち取った。また相撲では、中村選手が前日の重量級銀メダルに続き、無差別級で金メダルを獲得。女子無差別級では、今選手が銀メダルを手にし、相撲だけで今大会通算9個のメダル獲得となった。その他ライフセービングやフィールドアーチェリー、ドローンレース、公開競技のフラッグフットボールなどが行われた。

競技4日目、パルクールの泉選手が前日のスピード種目に続き、フリースタイル種目でも銅メダルを獲得。今大会2つのメダルを手にした泉選手は、「大きな舞台で日本代表としてメダルを獲得できて光栄」と笑顔で話した。

連日の猛暑の中、日本勢躍動！

競技5日目、公開競技である男子ラクロスが最終日を迎えた。3位決定戦で日本はイギリスと対戦し、第4クオーターまで18対18の両者譲らぬ闘いが繰り広げられた。試合は延長戦までもつれたが、見事日本が勝利し、銅メダルを獲得。国際大会初のメダル獲得となり、日本のラクロス界に新たな歴史が刻まれた。

折り返しとなる競技6日目。ソフトボールの決勝戦が行われた。対戦相手のアメリカは、昨夏の東京オリンピックでも決勝で戦い2対0で制している。今大会は接戦の末、2対3で敗れ、あと一歩及ばず、銀メダルとなった。

競技7日目は、ビリヤード、フライングディスク、ラクロス（女子）、スカッシュ、ウエイクボード・水上スキー、車いすラグビーなどが行われた。一進一退の攻防もあれば、順当に勝ち進む競技もあり、日本勢の奮闘が見られた。2028年ロサンゼルスオリンピックの追加競技として初採用を目指すフラッグフットボールは、この日、競技の全日程が終了。日本は8チーム中5位という結果だったが、上位チームとの実力僅差で引けを取らない試合運びを展開した。

日本選手メダル第1号となった6大会連続出場のパワーリフティング福島友佳子選手

ブレイキンで銅メダルを獲得した半井重幸選手

ラクロス男子が奮闘の末、銅メダルを獲得

ウエイクボードで金メダルを獲得した吉原陽向選手

大会終盤、初出場選手の快進撃続く

競技8日目、スポーツクライミングの女子ボルダリングで野中選手が金メダル、初出場の中村選手が銅メダルを獲得。男子ボルダリングでは藤井選手が銀メダル、緒方選手が銅メダルを獲得し、日本のスポーツクライミング勢の実力を世界に証明した。また体操では、男子ダブルミニトランポリンに出場した谷口選手が銅メダルを獲得した。

銅メダルを獲得した初出場のスポーツクライミング中村真緒選手

3位決定戦を制したビリヤード平口結貴選手

競技9日目のウエイクボードでは、フリースタイルで初出場の吉原選手が見事金メダルを獲得。デュアスロンでは、2013年大会（コロンビア）で優勝経験を持つ上田選手がトップと僅差で銀メダルを獲得した。さらにスポーツクライミングでは、前日の4個のメダルに続き、リードで初出場の谷井選手と樋口選手がともに銀メダルを獲得し、今大会通算6個のメダル獲得となった。ビリヤードでは初出場の平口選手が3位決定戦を制し、銅メダルを勝ち取り、喜びを爆発させた。平口選手は「今後もより良いパフォーマンスができるよう励んでいきたい」と早くも次大会への意欲をみせた。

競技最終日の10日目、公開競技としてワールドゲームズで初めて実施された車いすラグビーの決勝戦が行われ、日本は惜しくもイギリスに敗れたものの、全6戦中4勝という好成績を収め、強豪国がひしめく中、チーム一丸となって銀メダルを掴んだ。

10日間におよぶ熱戦は、この日の競技終了とともに閉幕した。今大会、日本からは21の競技に137名のトップアスリートが参加。前回大会よりも大きく上回る金10、銀11、銅12の計33個のメダルを獲得するめざましい活躍がみられた。

閉会式では、次回2025年の開催地である中国・成都の代表団にワールドゲームズ旗が手渡され、4年後の大会に向けバトンが引き継がれた。

見事銀メダルをつかんだ新種目の車いすラグビー 日本チーム

日本選手メダル獲得一覧

33個（金10個、銀11個、銅12個）／前回大会［22個（金9個、銀6個、銅7個）］

競技	種目			
ダンススポーツ	ブレイキン（B-Girls）	湯浅亜実		金
空手	男子個人形	本一将		金
パワーリフティング	男子軽量級	佐竹優典		金
パワーリフティング	女子軽量級	福島友佳子		金
スポーツクライミング	女子ボルダリング	野中生萌		金
相撲	女子軽量級	奥富夕夏		金
相撲	女子中量級	石井さくら		金
相撲	男子重量級	花田秀虎		金
相撲	男子無差別級	中村泰輝		金
水上スキー＆ウエイクボード	女子ウエイクボード（フリースタイル）	吉原陽向		金
空手	女子個人形	大野ひかる		銀
ソフトボール	女子	我妻悠香 市口侑果 川畑瞳 工藤環奈 坂本結愛 中川彩音 藤田倭 三輪さくら	石川恭子 勝股美咲 切石結女 後藤希友 内藤実穂 原田のどか 藤本麗	銀
スポーツクライミング	女子リード	谷井菜月		銀
スポーツクライミング	男子リード	樋口純裕		銀
スポーツクライミング	男子ボルダリング	藤井快		銀
相撲	女子軽量級	山中未久		銀
相撲	男子中量級	藤澤詩音		銀
相撲	男子重量級	中村泰輝		銀
相撲	女子無差別級	今日和		銀
トライアスロン	デュアスロン	上田藍		銀
車いすラグビー	ミックスチーム	今井友明 岸光太郎 乗松聖矢 長谷川勇基	小川仁士 倉橋香衣 乗松隆由 若山英史	銀
ビリヤード	プール	平口結貴		銅
ダンススポーツ	ブレイキン（B-Boys）	半井重幸		銅
ダンススポーツ	ブレイキン（B-Girls）	福島あゆみ		銅
体操（ダブルミニトランポリン）	男子	谷口遼平		銅
体操（パルクール）	女子スピード	泉ひかり		銅
	女子フリースタイル			銅
空手	女子組手50kg級	宮原美穂		銅
ライフセービング	4×50m障害物リレー	安藤秀 高須快晴	板場貴大 平野修也	銅
スポーツクライミング	男子ボルダリング	緒方良行		銅
スポーツクライミング	女子ボルダリング	中村真緒		銅
相撲	女子重量級	久野愛莉		銅
ラクロス	男子	梅原寛樹 金谷洸希 佐藤大 杉原暉徳 立石真也 夏目聖矢	尾花一輝 小松勇斗 佐野清 鈴木潤一 徳舛宗哉 福島裕樹	銅

競技別メダル獲得数

【公式10競技／30個】
ビリヤード1個、ダンススポーツ3個、空手3個、ライフセービング1個、体操3個、パワーリフティング2個、ソフトボール1個、スポーツクライミング6個、相撲9個、水上スキー＆ウエイクボード1個

【公開3競技／3個】
トライアスロン1個、ラクロス（男子）1個、車いすラグビー1個

バーミングハム大会の金メダリスト、ダンススポーツ ブレイキン 湯浅選手に大会の振り返りや感想、今後の目標などを伺ったインタビューをご紹介します。

ダンススポーツ ブレイキンB-Girls
金メダリスト

湯浅（ゆあさ） 亜実（あみ） 選手

1998年生まれ、埼玉県出身。6歳からヒップホップダンスをはじめ、10歳でブレイキンを本格的に始める。19歳から数々の大会に出場し、多くの賞を獲得。2024年パリオリンピックでの活躍が期待されている。

Q.　ワールドゲームズ初出場の感想をお聞かせください。

A. 他競技の選手と一緒に参加する大会が初めてだったので、始まる前からすごくワクワクしていました。開会式の華やかさはもちろんですが、どの試合もお祭りのように盛り上がっていて新鮮でした。参加競技や国籍は違えど、スポーツが大好きな人々が集結して、楽しんでいる姿が印象的でとても楽しかったです。私が出場したブレイキンの会場も、すごく盛り上がっていて、楽しく競技に臨むことができました。

Q.　ブレイキンダンスの魅力とは。

A. 出場者全員が輝けるところです。たとえばタイムを競うスポーツだと、どうしても一番早い人に注目が行きがちですが、ブレイキンの場合は、一人一人違うアプローチの仕方があって、それぞれが自分の好きなように表現します。勝ち負けに限らず、見ている人に感動を与えられるのがブレイキンの魅力だと思います。

Q.　今後の目標は。

A. 今後もこれまで通り、自分の今一番近くにある大会に集中したいと思います。2024年のパリオリンピックにブレイキンが新種目として追加されたので、頭の片隅でそのことを常に意識していますが、カルチャーサイドのイベントやローカルなイベントなど、比較的規模の小さな大会にも全力で挑み、大切に取り組んでいきます。

大会総括

Withコロナでの大会開催に挑み、ロシアのウクライナ侵攻に抗議しながら開催された第11回ワールドゲームズ

特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会
執行理事　**師岡 文男**

国際ワールドゲームズ協会（IWGA）名誉委員
国際スポーツ団体連合（GAISF/SportAccord）元理事
世界フライングディスク連盟理事
日本フライングディスク協会会長
上智大学名誉教授
（所属・役職：2023年3月現在）

2022年7月7日（木）～17日（日）の11日間、アメリカ合衆国バーミングハムで開催された第11回ワールドゲームズは、新型コロナウイルス感染拡大で当初の開催年が1年延期され、第1回サンタクララ大会から41年ぶりのアメリカ開催となりました。大会期間中、ほとんどの選手・役員・観客がマスクを着用しない状況下で、感染する選手・役員・関係者が出ましたが、感染者は5日間の隔離の後にPCR検査を実施して出場の可否を決定する方式で、大会は予定通りに運営されました。

大会132日前の2022年2月24日にはロシアによるウクライナ侵攻が始まってしまい、国際ワールドゲームズ協会（IWGA）理事会は、3月にロシアとウクライナ侵攻に協力しているベラルーシの選手の参加を認めないことを決定し、ウクライナ選手団に支援金54,000ドルとチケット1枚に付1ドルを贈りました。最終的には、さまざまな困難を乗り越えて、第11回大会にはウクライナを含む99カ国3,457人の選手が参加。前回第10回大会の102カ国に次ぐ史上2番目に多い国・地域から史上最多の選手が34競技58種目223のメダルイベントに参加しました。観客数も開会式の26,000人を筆頭に23会場計37万7,000人を記録しています。

大会を後援するIOCのトーマス・バッハ会長も視察に訪れ、選手達や国際競技団体・IWGA役員と交流し、オリンピックの追加競技種目はすべてワールドゲームズ競技が選ばれている関係性の深さを示していました。

国別の金メダル獲得数は、ドイツが1位（金メダル24個、銀メダル7個、銅16個）、2位アメリカ（金16/銀18/銅10）、3位ウクライナ（金16/銀12/銅17）、日本は8位（金10/銀11/銅12）でした。因みにドイツの選手数は237人で、アメリカ（340人）に次ぎ2位で、3位のイタリア（185人）を上回っています。

放送は、前回の2017年大会同様、オリンピックチャンネルが協力し、世界中の多くの人々が大会を視聴することができました。権利マーケターのISBは、15の放送局に国際テレビ放映権を販売し、コンテンツは75カ国のテレビで放映されました。アメリカでは、3大全米ネットワークの1つであるCBSが放映権を取得し、連日テレビ報道しました。

日本では、テレビ東京が放映権を獲得し、ソフトボール、スポーツクライミング、ラクロスの番組は放送されましたが、ワールドゲームズそのものとその他の競技については今大会の映像がまったく流れず大変残念でした。また、オリンピックチャンネルによる日本への配信が行われなかった競技がかなりあったことは次回改善されるべき課題であり、大会期間中にIWGAと連携協定を締結した日本ワールドゲームズ協会（JWGA）の交渉課題となるでしょう。TVニュース用の映像の提供を望んだ他のテレビ放送局が、結局映像を入手できなかったことについても改善を求めていく予定です。

今回、パラスポーツの車いすラグビーが初めてワールドゲームズに採用されました。小生がIWGA理事を務めた際提案し続けたことが実現して嬉しい限りですが、採用される種目は、パラリンピックに採用されていない種目にすることが今後ワールドゲームズとしては重要だと思います。

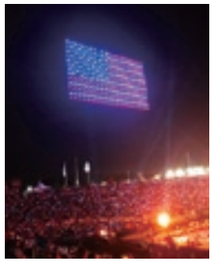
また、今回ワールドゲームズプラザのスポーツガーデンに、今回の大会の競技種目に選ばれなかった合気道などIWGA加盟国際競技団体の9種目を一般市民が体験するコーナーを設置したことは、スポーツ・フォー・オールを推進するためにも有意義であったと思われます。

この他、eゲームパビリオンで、アーチェリー、野球、ラケットボールなどのワールドゲームズスポーツのeゲーム版を試すコーナーが開設されたことは、今後多様化することが予想されるワールドゲームズ競技のあり方を考えるためにも重要であったと思います。

大会組織委員会はまだ収支決算を報告していませんが、既存施設を使って開催するワールドゲームズのあり方は、今後肥大化したオリンピックを改善するために極めて実効性のある方法であることは間違いないと思われます。因みに大会組織委員会が大会前に発表している大会の経済効果予測は、2億5,600万ドル（大会開催時の為替レート$1＝135円で計算すると345億6,000万円）となっています。

今回独立行政法人日本スポーツ振興センターは、2001年に秋田で22億円で第6回ワールドゲームズを開催できた前例をもとに、日本の地方都市が国際スポーツイベントを開催する可能性を検討するために、第11回ワールドゲームズの現地調査を行い報告書をまとめ発表しました。今後、既存施設を使用して大会開催経費を抑える検討が進むことが期待されます。

Opening Ceremony



ドローンによる開催国のアメリカ国旗

大歓声に包まれるスタジアム

各会場では連日多くのオーディエンスが声援を送っていた

今大会も老若男女、多くのボランティアが大会を支えた

2025年の開催都市・成都市（中国）にIWGA旗が手渡される

Closing Ceremony

閉会式では、スポーツを通じた平和的な一体感の表れとして、入場行進は国別に分かれることなく、混ざり合いながら行進した

THE WORLD GAMES
CHENGDU 2025

第12回 ワールドゲームズ 成都大会

開催都市 中華人民共和国 成都　**開催期間** 2025. 8.7-8.17

実施予定競技

公式競技※1　30競技

- エアースポーツ
- アーチェリー（フィールド）
- ソフトボール
- ビリヤード
- ブールスポーツ
- カヌー（ドラゴンボード含む）
- ダンススポーツ（車いすダンス含む）
- フィストボール
- フロアボール
- フライングディスク
- 体操（アクロバット体操、エアロビック、パルクール、新体操種目別、トランポリン、タンブリング）
- ハンドボール（ビーチ）
- 柔術（パラ柔術含む）
- 空手
- キックボクシング
- コーフボール
- ラクロス
- ライフセービング
- ムエタイ
- オリエンテーリング
- パワーリフティング
- ラケットボール
- ローラースポーツ
- サンボ
- スポーツクライミング
- スカッシュ
- 綱引
- 水中スポーツ（パラフリーダイビング含む）
- 水上スキー・ウエイクボード
- 武術

追加競技※2　5競技

- アメリカンフットボール（フラッグフットボール）
- チアリーディング（ダブルボム）
- パワーボート（モトサーフ）
- ラグビー（車いすラグビー）
- トライアスロン（デュアスロン）

（※1）国際ワールドゲームズ協会（IWGA）の加盟競技（39競技）の中から実施されます。
（※2）国際ワールドゲームズ協会（IWGA）とIOC・IPC・開催都市が協議し決定します。追加競技は2022年の第11回大会まで「公開競技」として実施

成都の概要

成都は、中国四川省の省都で、成都平原にあります。北京の南西約1,800キロメートルに位置し、気候は温暖。年間平均気温は20℃前後で過ごしやすいです。雨量が多く、肥沃で産物も豊富なため、「天府の国」とも呼ばれています。中心部では都市化が進んでいて、四川省の経済の中心となっています。

about Chengdu

- 人 口：2,126万人（2022年末）
- 面 積：14,312平方キロメートル
- 日本との時差：－1時間

JTBはワールドゲームズを応援しています
JTB 感動のそばに、いつも。

国内・海外遠征
長年のスポーツ団体の遠征手配の経験を活かし、円滑、スピーディー、且つ快適な遠征のお手伝いをいたします。

合宿（国内・海外）
合宿場所のコンサルティング、移動・練習場所・食事のコーディネートまでご希望にお応えします。

（株）JTB スポーツマーケティング事業部　［営業時間］9:30～17:30 土日祝休
TEL 03-5909-8090　URL www.jtb.co.jp/sports/

THE WORLD GAMES

JAPAN World Games Association

特定非営利活動法人

日本ワールドゲームズ協会

Japan World Games Association（JWGA）

1985年に国内のワールドゲームズ関係競技団体などによって、日本ワールドゲームズ委員会が設立され、その後1991年12月に日本ワールドゲームズ協会（JWGA）に改組、IWGAの事業に参画、第6回ワールドゲームズの日本誘致を成功させました。2001年6月には、NPO法人の認証を受け、ワールドゲームズ運動とスポーツの振興を推進しています。

目的

ワールドゲームズの理念に則り、多種多様なスポーツを国民に普及・紹介し、スポーツ人口の増加を図り、選手の育成とそのレベルアップを図るとともに、スポーツを通じて我が国民はもとより、人類の健康増進と世界平和に寄与することを目的とします。

事業

目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行います。

1. 国際ワールドゲームズ協会及び国際スポーツ団体連合の事業への参画
2. ワールドゲームズに関する普及・啓発
3. ワールドゲームズ国内大会の開催
4. スポーツの国際交流の推進
5. 国際的なスポーツ問題の調査研究

会員（団体）

2023年8月現在　49団体［五十音順］

［正会員］29団体

公益財団法人合気会
公益財団法人全日本空手道連盟
一般社団法人日本サーフィン連盟
特定非営利活動法人日本水上スキー・ウエイクボード連盟
公益財団法人日本相撲連盟
公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
公益社団法人日本ビリヤード協会
一般社団法人日本フロアボール連盟
公益社団法人日本ボディビル・フィットネス連盟
一般社団法人ワールド スケート ジャパン
公益社団法人全日本アーチェリー連盟
日本キャスティング協会
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
一般社団法人日本水中スポーツ連盟
公益財団法人日本ソフトボール協会
公益社団法人日本パワーリフティング協会
公益社団法人日本武術太極拳連盟
公益社団法人日本ペタンク・ブール連盟
公益財団法人日本ライフセービング協会
公益財団法人笹川スポーツ財団
公益社団法人日本カヌー連盟
一般財団法人日本航空協会
一般社団法人全日本柔術連盟
公益社団法人日本スカッシュ協会
公益財団法人日本体操協会
公益財団法人日本ハンドボール協会
一般社団法人日本フライングディスク協会
公益財団法人全日本ボウリング協会
公益社団法人日本ラクロス協会

［準会員］15団体

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
日本オーケーゴルフ協会
公益財団法人日本ゲートボール連合
公益財団法人日本ソフトテニス連盟
一般社団法人日本ドラゴンボート協会
一般社団法人JAWA日本アームレスリング連盟
一般社団法人全日本空道連盟
一般社団法人日本健康麻将協会
公益社団法人日本ダーツ協会
日本マウンテンバイク協会
公益社団法人日本エアロビック連盟
一般社団法人日本車いすラグビー連盟
国際スポーツチャンバラ協会
公益社団法人日本トライアスロン連合
一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会

［支援会員］5団体

東京スカイダイビングクラブ
一般財団法人日本抜刀道連盟
公益財団法人日本レクリエーション協会
一般社団法人日本スポーツカイロプラクティック連盟
公益社団法人全日本フルコンタクト空手道連盟

役員

任期：2022年7月1日～2024年6月30日（2年間）［五十音順］

会　長	赤木　恭平	公益財団法人日本オリンピック委員会 名誉委員
副会長	渡邉　一利	公益財団法人笹川スポーツ財団 理事長
執行理事	大塚　眞一郎	公益社団法人日本トライアスロン連合 専務理事 ワールドトライアスロン 副会長
	師岡　文男	一般社団法人日本フライングディスク協会 名誉会長 世界フライングディスク連盟 理事　国際ワールドゲームズ協会 名誉委員
	吉澤　俊治	一般社団法人日本水中スポーツ連盟 副会長 世界水中スポーツ連盟 理事
	吉田　進	特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟 選手強化委員長 兼 事業委員長
理　事	川原　貴	一般社団法人全日本テコンドー協会 会長
	清宮　邦雄	一般社団法人ワールドスケートジャパン 顧問
	栗原　茂夫	公益財団法人全日本空手道連盟 副会長
	小林　伸輔	一般社団法人共同通信社 編集局 企画委員
	齋藤　良太郎	公益財団法人全日本ボウリング協会 専務理事
	滝川　哲也	株式会社時事通信社 編集局 解説委員
	南　和文	公益財団法人日本相撲連盟 会長　国際相撲連盟 会長
	宮城島 眞知子	公益社団法人日本スカッシュ協会 元常務理事
	森岡　裕策	公益財団法人日本スポーツ協会 専務理事
監　事	川地　政夫	公益財団法人日本ライフセービング協会 事務局長
	寺尾　靖世	日本マウンテンバイク協会 理事・事務局長

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階 笹川スポーツ財団内　TEL:03-6229-5300　FAX:03-6229-5340　E-MAIL:info@jwga.jp　https://www.jwga.jp/

JAPAN World Games Association

Japan World Games Association

（JWGA）

The Japan World Games Commission established in 1985 by domestic world games related sports associations, etc. This was then reorganized into the Japan World Games Association（JWGA）in December 1991, and the invitation for the 6th World Games in Akita 2001 was successful. The association received non-profit organization（NPO）corporate status in June 2001 and continues to promote the World Games sports in Japan.

Purpose

JWGA works towards popularizing the various sports including the World Games sports for increasing the number of sports enthusiasts in accordance with the World Games philosophy in Japan such as training athletes, improving their skills as well as advancing the good health and contributing to the world peace through sports.

Activities

1. Support the International World Games Association (IWGA) and SportAccord projects
2. Education and popularization of the World Games
3. Organize the World Games related event
4. Promotion of international exchange projects of sports
5. Investigative research on international sports issues

Members

[Full Member 29]

Aikikai Foundation
Japan Karatedo Federation
Nippon Surfing Association
Japan Waterski & Wakeboard Association
Japan Sumo Federation
Japan Dance Sport Federation
Nippon Billiard Association
Japan Floorball Federation
Japan Bodybuilding & Fitness Federation
World Skate Japan
All Japan Amateur Archery Federation
Japan Casting Association
Japan Mountaineering & Sport Climbing Association
Japan Underwater Sports Federation
Japan Softball Association
Japan Powerlifting Association
Japan Wushu Taijiquan Federation
Japan Petanque Boules Federation
Japan Lifesaving Association
Sasakawa Sports Foundation
Japan Canoe Federation
Japan Aeronautic Association
Jiu-Jitsu Federation of Japan
Japan Squash Association
Japan Gymnastics Association
Japan Handball Association
Japan Flying Disc Association
Japan Bowling Congress
Japan Lacrosse Association

[Associate Member 15]

Japan American Football Association
Japan OK Golf Association
Japan Gateball Union
Japan Soft Tennis Association
Japan Dragon Boat Association
Japan Arm Wrestling Association
Kudo All Japan Federation
Japan Kenko-Mahjong Association
Japan Darts Association
Japan Mountain Bike Association
Japan Aerobic Federation
Japan Wheelchair Rugby Federation
International Sports Chanbara Association
Japan Triathlon Union
Motorcycle Federation of Japan

[Supporting Member 5]

Tokyo Skydiving Club
Japan Battodo Federation
National Recreation Association of Japan
Japanese Federation of Chiropractic Sportive
Japan Fullcontact Karate Organization

Board Members

President	Kyohei AKAGI	Japanese Olympic Committee (Honorary Member)
Vice President	Kazutoshi WATANABE	Sasakawa Sports Foundation (President)
Executive Director	Shinichiro OTSUKA	Japan Triathlon Union (Executive Director) World Triathlon (Vice President)
	Fumio MOROOKA	Japan Flying Disc Association (Honorary President)　World Flying Disc Federation (Board Member) International World Games Association (Honorary Member)
	Shunji YOSHIZAWA	Japan Underwarter Sports Federation (Vice President) World Underwarter Federation (Director)
	Susumu YOSHIDA	Japan Para Powerlifting Fedreration (High Performance Committee Chair)
Director	Takashi KAWAHARA,MD	All Japan Taekwondo Association (President)
	Kunio KIYOMIYA	World Skate Japan (Adviser)
	Shigeo KURIHARA	Japan Karatedo Federation (Vice President)
	Shinsuke KOBAYASHI	Kyodo News (Editorial Planning Commission)
	Ryotaro SAITO	Japan Bowling Congress (Exective Director)
	Tetsuya TAKIGAWA	JIJI PRESS (Editional Bureau Analyst)
	Kazufumi MINAMI	Japan Sumo Federation (Chairman) International Sumo Federation (Chairman)
	Machiko MIYAGISHIMA	Japan Squash Association (Former Managing Director)
	Yusaku MORIOKA	Japan Sport Association (Executive Director)
Inspector	Masao KAWACHI	Japan Lifesaving Association (Secretary General)
	Yasuyo TERAO	Japan Mountain Bicycle Association (Director/Secretary General)

Japan World Games Association（JWGA）C/O Sasakawa Sports Foundation
The Nippon Zaidan Building 3F,1-2-2 Akasaka,Minato-ku Tokyo 107-0052, Japan　TEL:+81-3-6229-5300　Fax.:+81-3-6229-5340　E-Mail:info@jwga.jp　https://www.jwga.jp/

JAPAN
World Games
Association

https://www.jwga.jp/